

2022年4月1日

依命留学報告書

学科名 国際農業開発学科
職名 教授
氏名 本橋 慶一

1. 留学先 University of the Highlands and Islands (英国)
2. 研究課題 Comparison of genus *Phyllosticta* parasitizing Cupressaceae in Scotland and Japan
3. 留学期間 2021年4月1日～2022年3月31日
4. 留学期間中の活動報告

当初2020年9月に出発予定の依命留学であったが、世界的なコロナ禍により半年の延期となった。2021年3月末にはUHI側からスコットランド本土でのcovid-19に対する警戒レベルがあがりロックダウンとなったこともあり、受入の延期について打診があった。コロナ禍の終息がみえないなかではあったが、受入先の体制をスコットランドのインバネスにて滞在して待機することとした。滞在中、UHIに対して多くの申請手続きを行ったものの、最終的に入構許可が下りず、自宅での研究活動となったことは非常に残念ではあったが、通常時とは異なるコロナ禍でのスコットランドと日本での対応の相違について実感し、その生活を体感できたことは貴重な体験となった。加えて、スコットランドに滞在したこともあり、日本人が英国と認識している国がその内部では、スコットランド、イングランド、その他北アイルランド、ウェールズはそれぞれ歴史的背景やその国の成り立ち、行政などから異なる国であるという強い印象を改めて受けた。

研究活動として、スコットランドで進むヒノキ科樹木を中心とした植林事業の中で病害発生について、特に日本でも問題となってきた植物寄生菌 *Phyllosticta* 属菌の発生状況と日本との比較について行った。研究規模は縮小したが、現地では *Phyllosticta* 属菌以外の病害で大きなリスクを抱えていること、加えて、未だ認識されていない病害が存在することが明らかとなった。また、本菌による病害のうち、欧州で問題となってきたトチノキの病害も英国内で確認され、その北限域がスコットランド南部のローランド地方であることも新たに判明し、今後の研究展開に期待したい。

UHI側の教員との交流も限定的ではあったが、野外での林業実習に参加することができ、また、生活上のサポートも多く頂けた。UHIでは樹木病害の重要性を認識しているものの、その専門の方がいないとのことで、今後の研究協力を継続することが確認された。これらの成果は、今後の教育現場に還元していくとともに、スコットランドとの研究を継続していくことが今後の私の使命である。